

アシテア®

(ダニによる舌下免疫療法)



アシテア® の効果

青年期 アシテア® 57名の効果

とても良くなった	11名(19.3%)	改善群 38名 (66.7%)
良くなった	27名(47.4%)	
少し良くなった	8名(14.0%)	非改善群 19名 (33.3%)
変わらない	5名(8.8%)	
悪化し中止した	6名(10.5%)	

低年齢層 アシテア® 88名の効果

とても良くなった	21名(23.9%)	改善群 53名 (60.2%)
良くなった	32名(36.3%)	
少し良くなった	21名(23.9%)	非改善群 35名 (39.8%)
変わらない	14名(15.9%)	
悪化し中止した	0名(0%)	

青年期も低年齢層も改善群は6割台。
少し良くなったも含めると8割台であった。



年齢別 全身的な副反応発現率の差

n=173

ー 開始後2週間の検討 ー

9歳未満の
全身的な副反
応発現率は低
かった

(アシテア®)

副反応 年齢	なし	局所的な 反応	全身的な 反応
4	1	2	0
5	5	6	2
6	5	7	3
7	1	7	6
8	3	5	1
9	0	4	12
10	2	3	4
11	1	3	5
12~	16	20	49

12.5%

26.3%

61.8%

57.7%



全年齡アシテア®における治療継続期間と効果

治療継続期間が長いほど
改善群の割合が増加した

n=160

効果 継続期間	とても良くなった	良くなった	少し良くなった	変わらない	悪化し中止した
6ヶ月以内	7	17	15	14	6
7～11ヶ月	16	32	11	9	0
12ヶ月以上	11	19	2	1	0

40.7%

70.6%

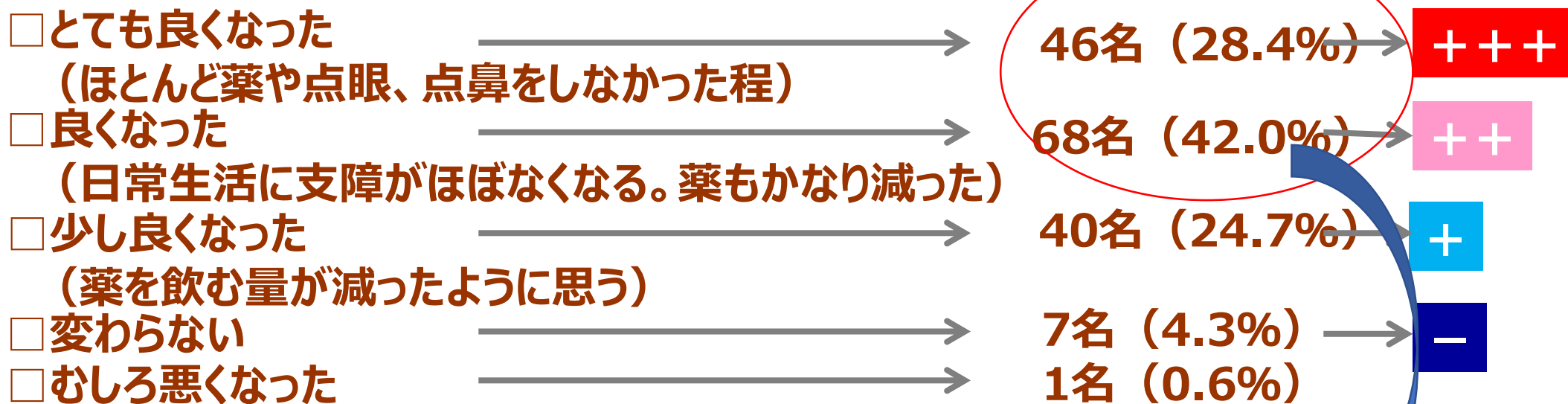
90.9%

シダキユア®

(スギによる舌下免疫療法)



シダキュア® 162名の効果



10名中7名に効果あり

70.4%

2019年5月調査



年齢層別全身的な副反応発現率の差

－ 開始後2週間の検討 －

n=162

12歳未満の全身的な副反応発現率は20%未満だった

(シダキユア®)

副反応 年齢	なし	局所的な反応	全身的な反応
3・4	5	0	1
5	7	8	3
6	3	5	1
7	9	4	3
8	7	2	1
9	3	9	4
10	6	9	1
11	5	4	2
12～18	8	6	4
19≤	12	19	11

16.7%

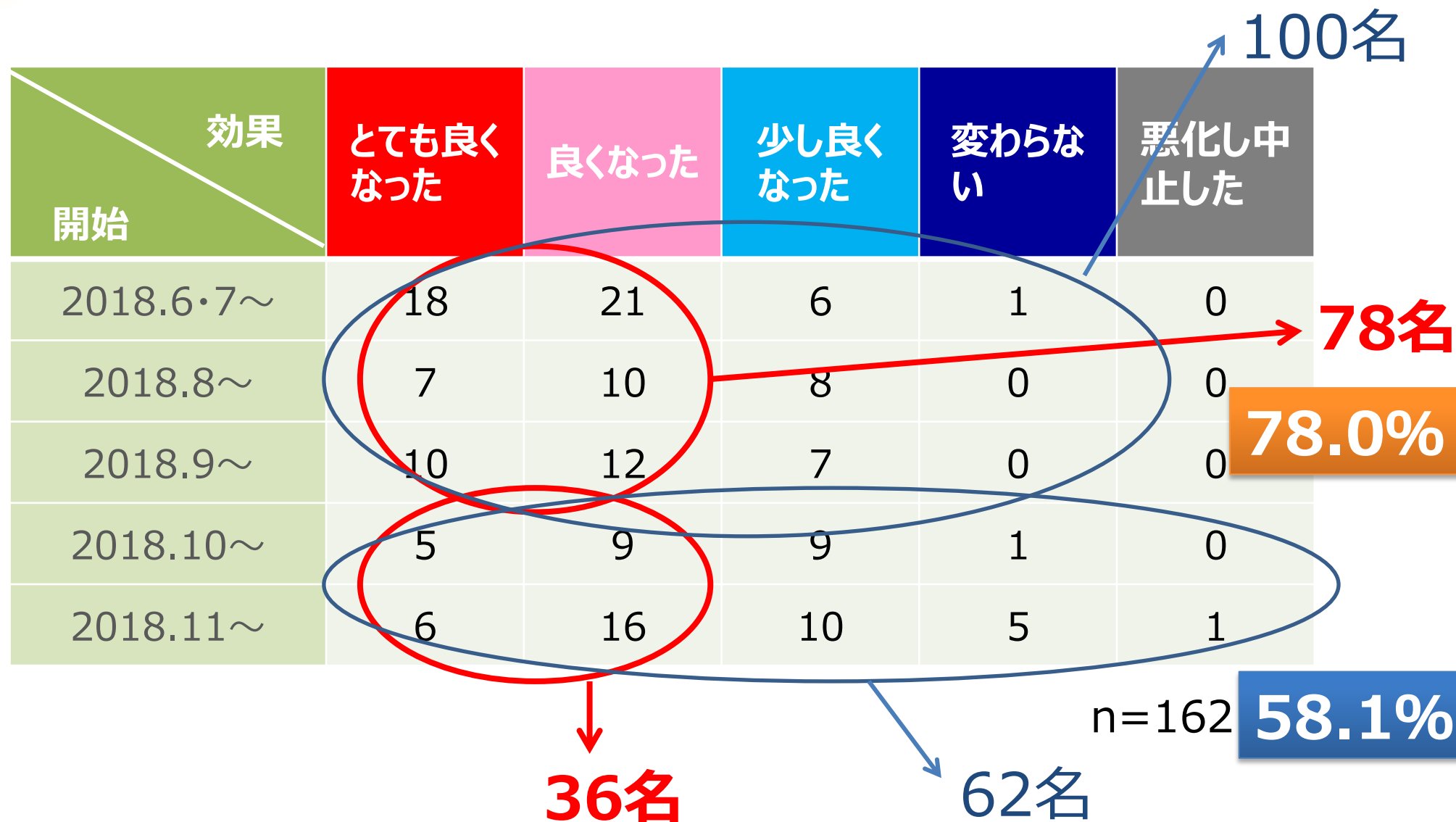
14.3%

14.0%

25.0%



全年齢シダキュアにおける治療継続期間の差とその効果



飛散開始3ヶ月前までの治療開始が望ましい

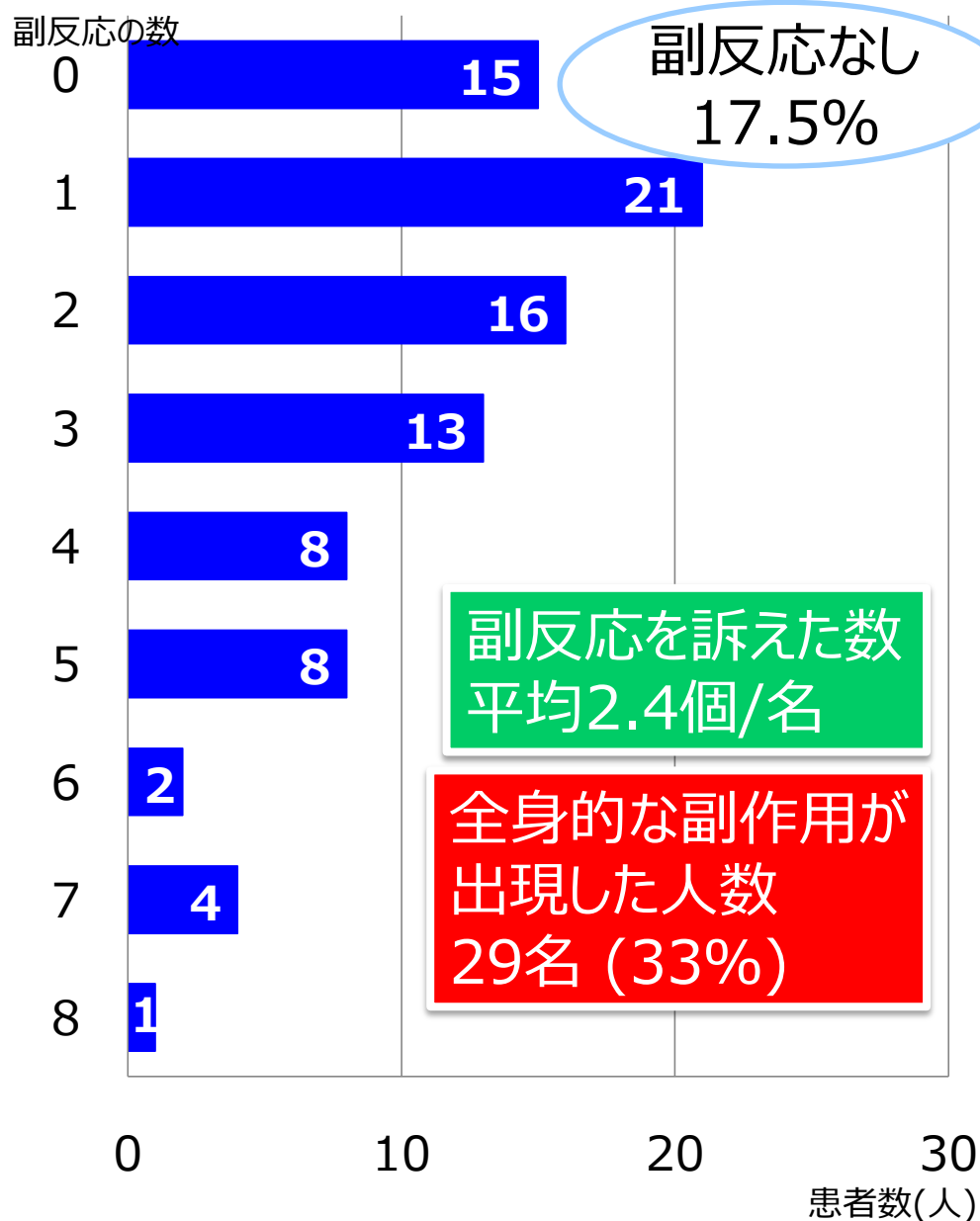
アシテア®とシダキュア®

(ダニとスギの舌下免疫療法)

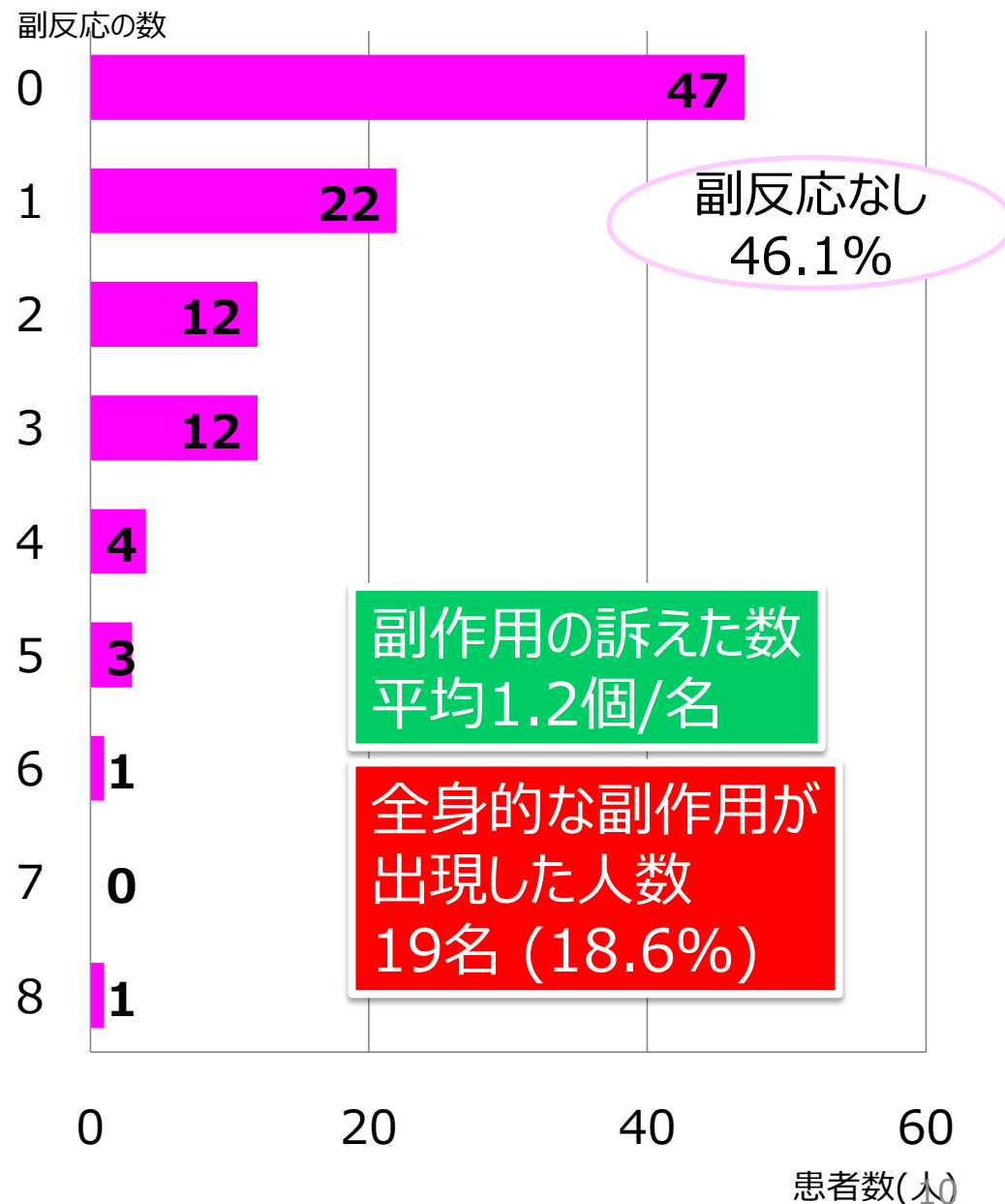


低年齢層におけるアシテア®とシダキュア®の副反応数

アシテア® (n=88)



シダキュア® (n=102)





低年齢層におけるアシテア® とシダキュア®の副反応の種類

腹部症状が出現した症例は、
全例3個以上の副反応が認められた

		副反応											
	なし	局所的な反応						全身的な反応					
		①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥
アシテア® n=102	15	52	15	1	23	46	6	6	17	3	6	6	
シダキュア® n=88	47	34	6	1	10	37	3	5	7	2	8	2	0

- ①口の中がピリピリしたり、痒い

②舌がしびれた感じがする

③顔が痒くなる

④口の中や舌が少し腫れる

⑤のどや耳が痒くなる

⑥口内炎ができる
- ①体が痒くなる

②のどがつかえる感じがする

③体がだるくなる

④おなかが痛くなる

⑤吐き気がする

⑥苦しくなる



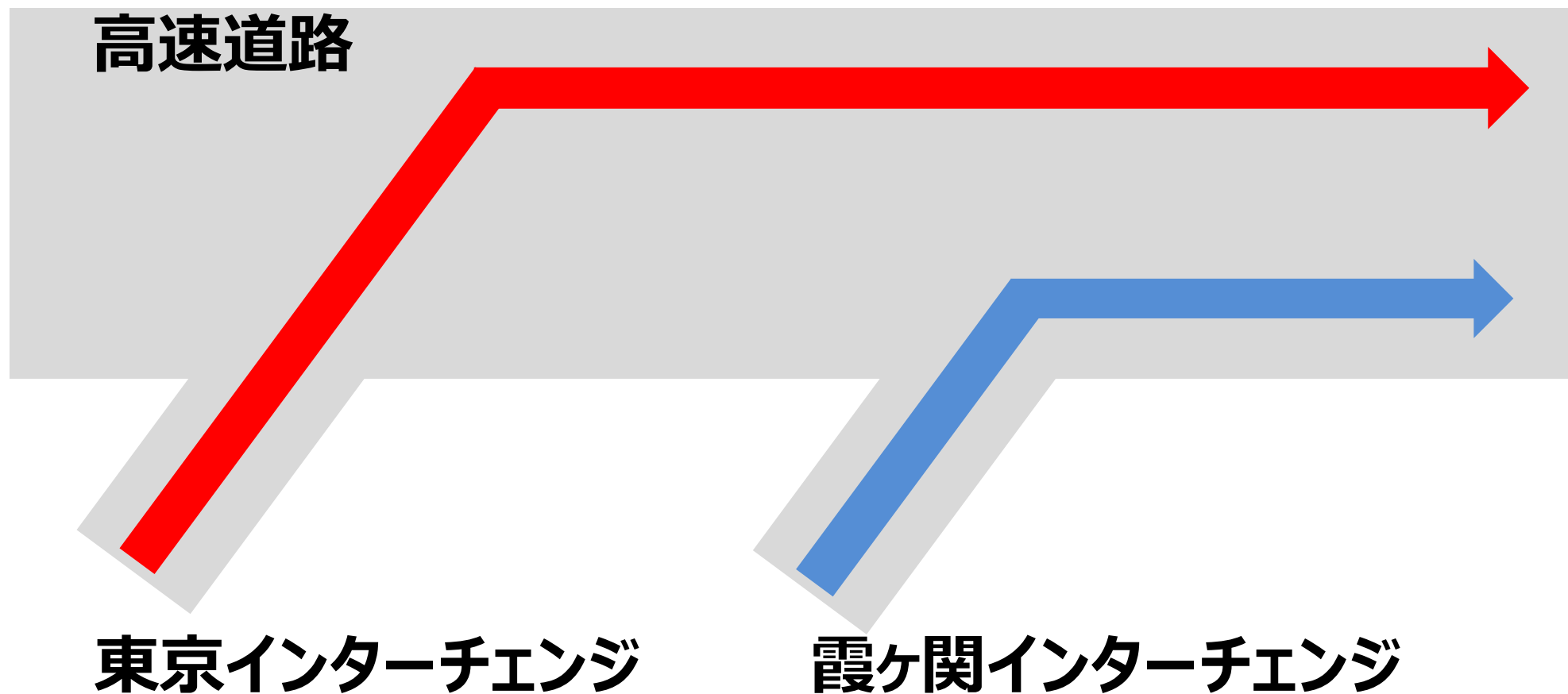
患者さんが訴えたその他の副反応

目が痒い	10例	嘔声	1例
鼻汁が出る	7例	眼瞼の腫れ	
のどが痛い		しゃっくり	
のどや舌が乾く	4例	体全体が熱くなる	
くしゃみが出る		痰がからんでくる	
胸の痛み		蕁麻疹	
頭痛	3例		
咳が出る			

ダブル舌下免疫療法



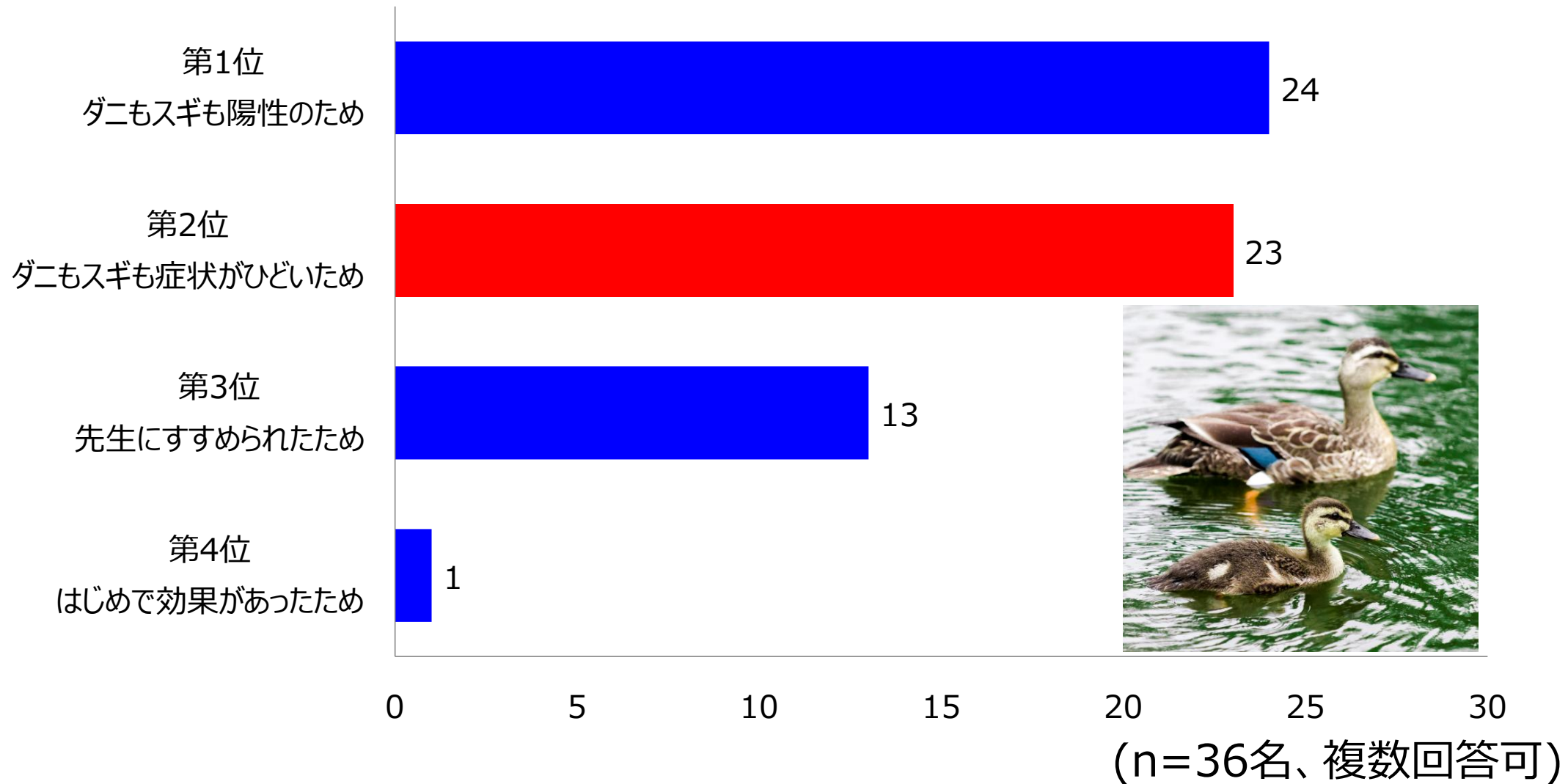
ダブル舌下免疫療法へのもっていき方



東京ICでスタートした舌下免疫療法の安定が確認できた後、
霞ヶ関ICより別の舌下免疫療法を合流させていく



ダブル舌下免疫療法を始めた理由





ダブル舌下免疫療法はどちらから先がよいですか？

例えば卵と牛乳の食物アレルギーを持っている人が、
どちらの食物から負荷試験をしますか？と同じこと



ダニからスギへ

1. ダニでうまく持っていければ後半のスギは楽
2. ダニは1年中いつでもできるので、スタートを待つ必要がない
3. ダニの効果はスギと比較してわかりにくいいため、より長く継続させたい

スギからダニへ

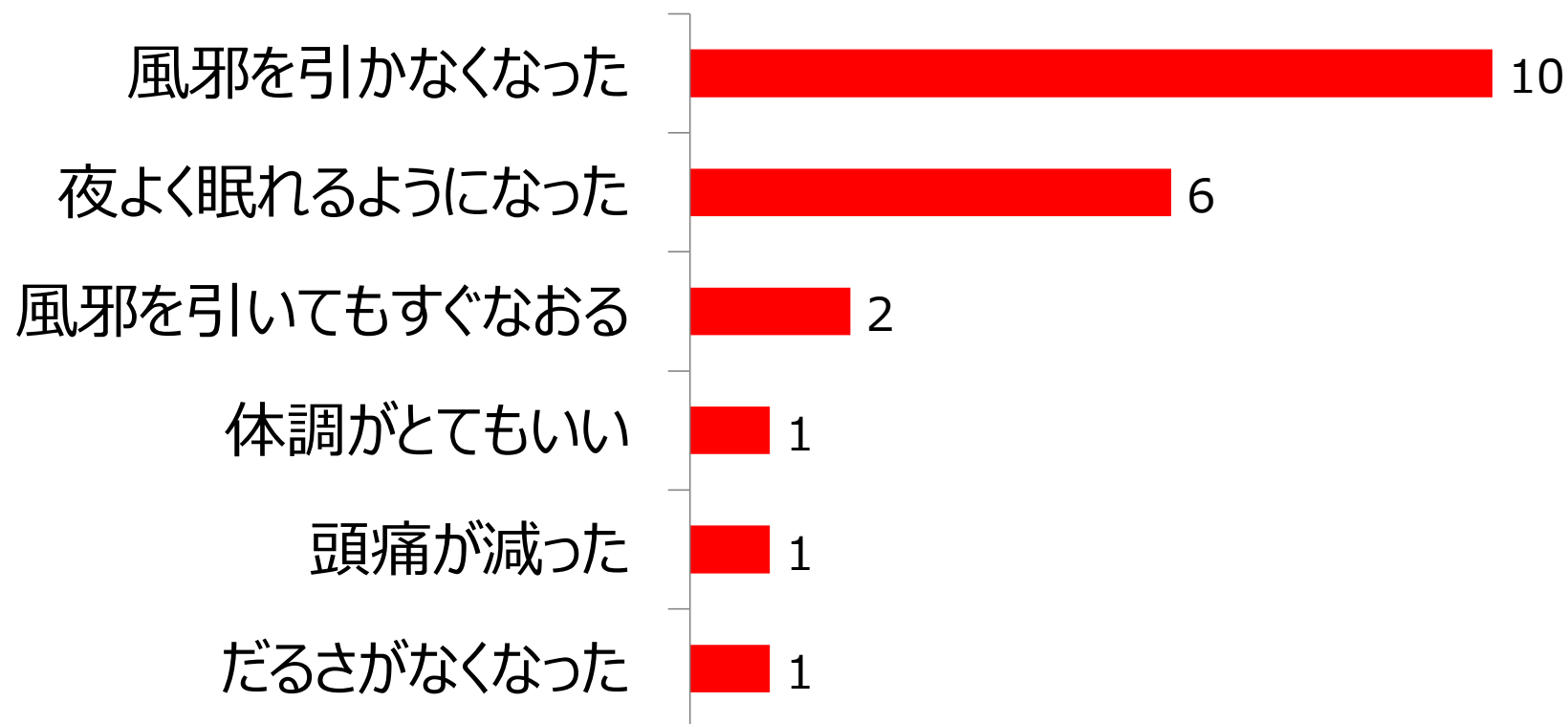
1. まず副反応が少ないスギで自信をつけてからダニへ
2. スギである程度習慣化してからダニを頑張る
3. スギだと家族で始める場合が多いため、環境としては整備される

改善した症状



改善した症状

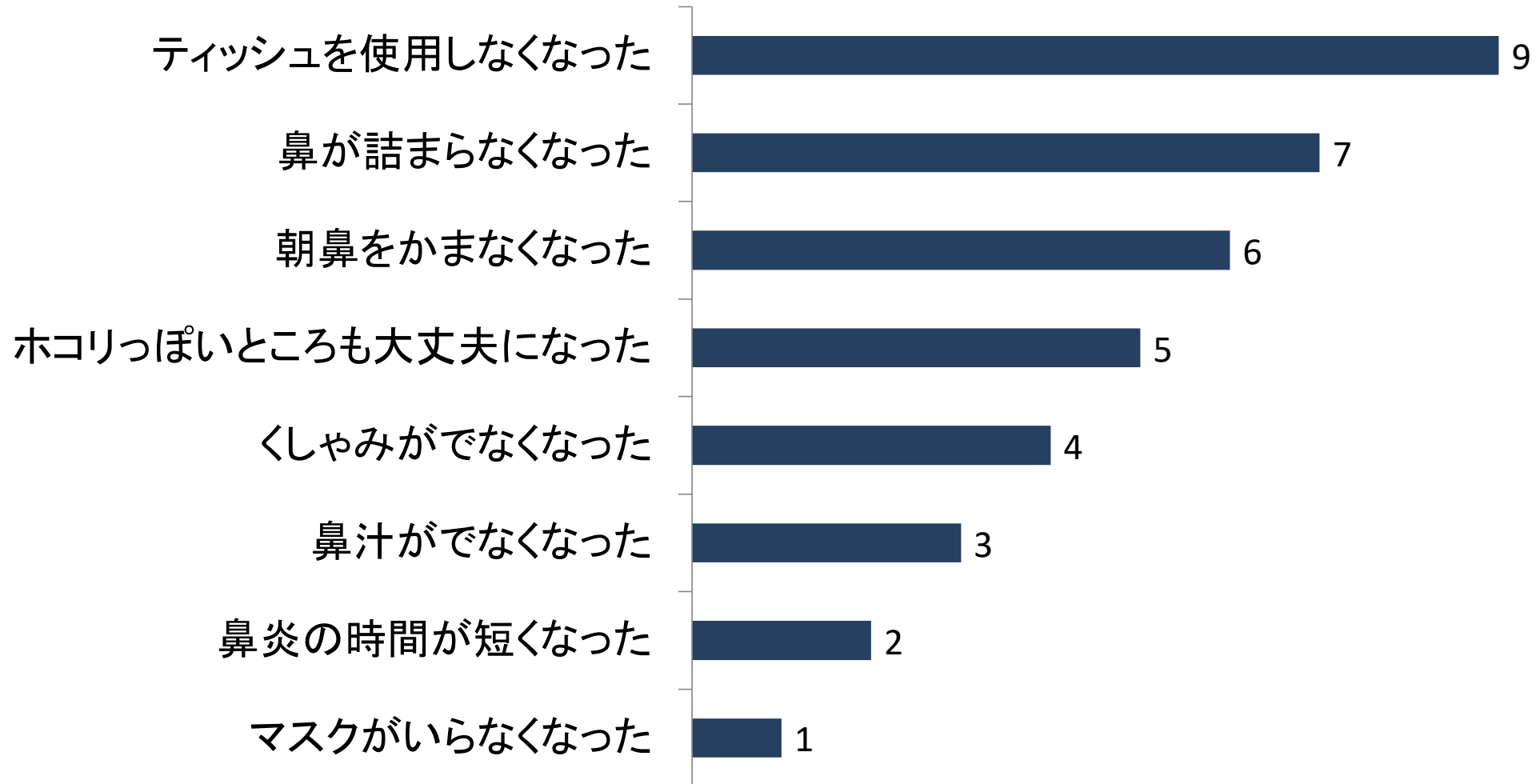
1. 全身症状





改善した症状

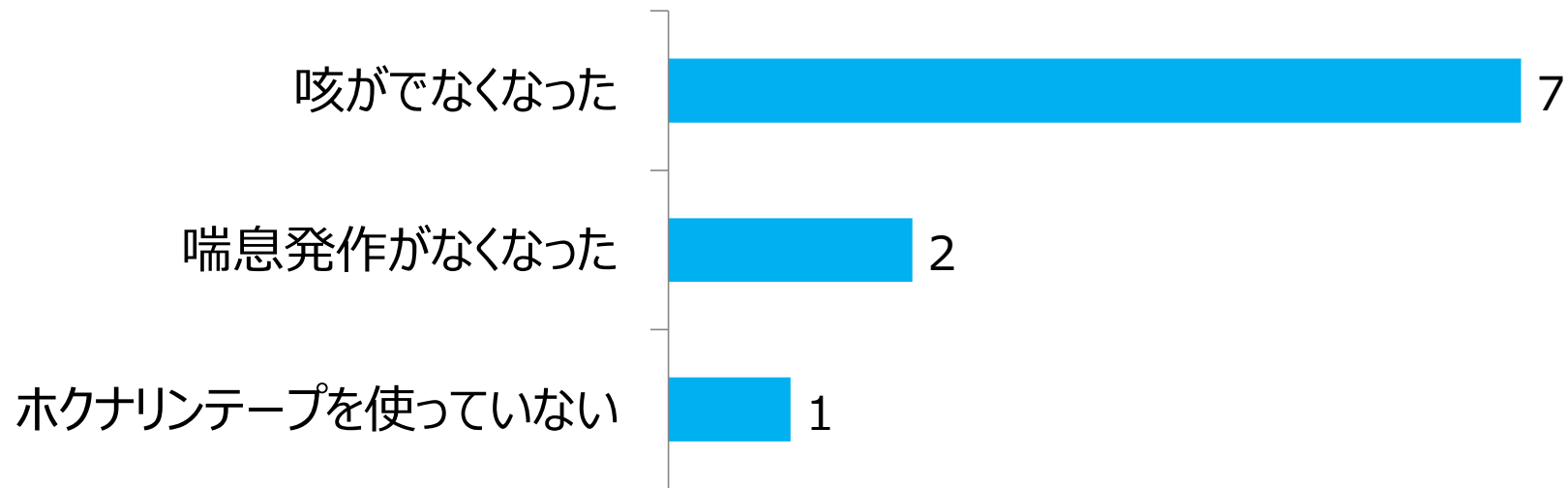
2. 鼻症状





改善した症状

3. 呼吸症状



習慣化



改善群と非改善群とのデータ比較

指標	項目		改善群(n=38)	非改善群(n=19)	P値
1	年齢(歳)		13(12-16)	13(12-17)	0.357*
2	治療継続期間(カ月)		12.5(2-21)	2(1-13)	0.000*
3	男		60.5%(n=23)	57.9%(n=11)	0.849**
4	副反応	なし	21.1%(n=8)	21.1%(n=4)	0.973**
		局所的	23.7%(n=9)	21.1%(n=4)	
		全身的	55.3%(n=21)	57.9%(n=11)	
5	副反応の持続期間(カ月)		2(0-6)	1(0-5)	0.138*
6	プロトコルに順守できた割合		73.3%(n=28)	52.6%(n=10)	0.112**
7	喘息の罹患率		36.8%(n=14)	52.6%(n=10)	0.706**
8	喘息の重症度(治療step)	1	42.1%(n=16)	36.8%(n=7)	0.404**
		2	31.6%(n=12)	36.8%(n=7)	
		3	15.8%(n=6)	26.3%(n=5)	
		4	10.5%(n=4)	0%(n=0)	
9	喘息の罹患年数(年)		6(0-15)	5(0-15)	0.752*
10	アレルギー性鼻炎の重症度(※1)	軽症	0%(n=0)	0%(n=0)	0.315**
		中等症	28.9%(n=11)	31.6%(n=6)	
		重症	34.2%(n=13)	15.8%(n=3)	
		最重症	36.8%(n=14)	52.6%(n=10)	
11	アレルギー性鼻炎の罹患年数(年)		8.5(1-12)	8(2-13)	0.818*
12	コナヒョウダニ値(IU/ml)		89.15(0.8-100)	74.6(1-100)	0.391*
13	アレルゲン感作数(RASTクラス3以上)		2(1-4)	2(1-4)	0.166*
14	ペットあり割合		18.4%(n=7)	21.1%(n=4)	0.812**
15	IgE値(U/ml)		507(5.1-3946)	471(101-6281)	0.600*
16	好酸球(数)		310.5(40-1140)	468(60-955)	0.239*
17	服薬アドヒアランス	良好(90%以上)	89.5%(n=34)	57.9%(n=11)	0.001**
		50-90%	10.5%(n=4)	10.5%(n=2)	
		50%以下(中止)	0%(n=0)	31.6%(n=6)	

※1:鼻アレルギー診療ガイドライン2016より

Mann-WhitneyのU検定*

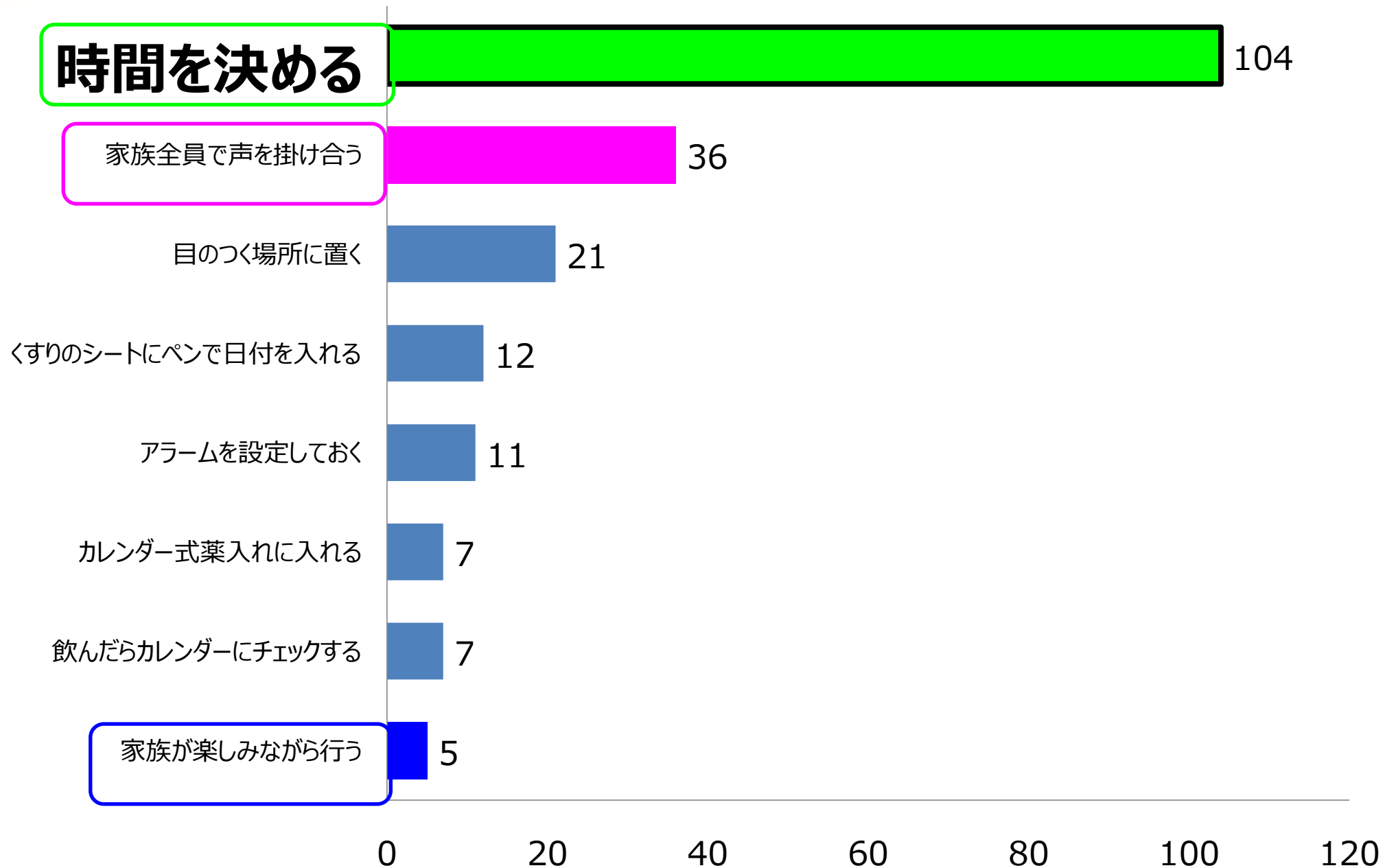
χ^2 の二乗検定**

中央値(範囲)

日本小児アレルギー学会誌投稿中



習慣化するための工夫





習慣化 -コメント集-

- 親が忘れていたとき、「ママ、お薬！」と言った我が子は輝いていた。
- 子供はゲームが大好きなので、60秒経ったと感じたとき、手を挙げさせた。はまって親と競ってます。
- ポイント制にして、ポイントがたまると景品が出てくるシステムを作った。
- 普段は月300円のおこづかいが1ヶ月1日も忘れずにやると350円になる。
- 大きな声で「**舌下タイム！**」と叫んでから舌下を始めている。**本人は楽しそう。**
- 「**これは効く薬でござーる**」と3回言ってから舌下をしている。
- 家族みんなでやっている。以前より**家族の結束が高まった**と感じている。
- **あまり仲が良くなかった姉妹が、最近よく喋っている。**
- 親が頑張ること！
- 「絶対に忘れない」という強い気持ちで。
- 薬のついたマグネット式カレンダーで、**ひっくり返すと大好きな電車に会える。**
- 舌下は**寝る前のコミュニケーションツール**としてとても良い。
- アシテアを「**アッシー**」、シダキュアを「**シッダー**」と呼び**楽しくやっている。**
- ゲームをやっている間に舌下する。
- 母親の指をなめることが好きなので続けられている。



舌下免疫療法 最大の意義





まとめ

2018年 年齢枠がはずれた舌下免疫療法は、
いよいよ気管支喘息の治療に踏み込む
本当の真価が問われる時代に入ったと言えます。
今はまだ市民権（認知）を得たとはいえない
舌下免疫療法が、近い将来

アレルギー診療の中心（核）

となる治療に変わっていくと私は信じています。
このような**歴史的転換期**に立てていることを
幸せに感じています。

2019.6 笹本明義